

# 平成 23 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ オガラ ショウコ  
氏名 小倉 祥子

研究期間 平成 23 年度

研究課題名 四年制大学卒業女性のライフコース分析－職業・結婚・子育て－(4)

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	小倉 祥子	人間関係学部	准教授
研究分担者	安立 奈歩	人間関係学部	講師
研究分担者	加藤 容子	人間関係学部	准教授

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究は、椋山女学園大学の卒業生を対象とし、卒業後の就業経験とライフスタイルの変遷について、検討・分析することを目的としたものである。平成 22 年度にはそのためのツールとして質問紙を開発し、調査 (I) として人間関係学部卒業生 800 人に対して 2011 年 1 月～2 月にアンケート調査を配布・回収を行った。本研究では調査 (II) とし、2011 年 7 月の中旬に、800 人に対して調査を行った。これにより調査 (I) (II) により回収された調査結果を合算し、人間関係学部の卒業生がどのようなライフコースをたどっているのか、その決定は「世代」「社会環境」「職業・結婚・子育て」といったどのような要因により、より強く規定されているのかを分析するデータを収集した。

## 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

卒業生アンケート調査 (II) の実施の準備 (助成金交付～6 月)

1. H21 実施の本調査 (I) をもとにアンケート用紙を修正し完成させる
2. H20 申請・了承の得られた同窓会名簿から、アンケート送付対象者を決定する

卒業生アンケート本調査 (II) の実施 (7 月)

1. 卒業生 1,000 名を対象に調査を実施する
2. 協力者を対象に謝礼を送付する

本年度の成果のまとめ・論文作成

1. 卒業生アンケート本調査 (I) (II) の集計
2. 論文作成をする

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

2010年度～2011年度にかけておこなった卒業生アンケートについての2回目調査実施及び集計を行った。本調査の概要は、以下である。

- ・2回目調査：2011年7月～8月
- ・配布対象者、配布枚数／配布・回収方法は1回目と同様
- ・回収数：166（回収率20.1%）
- ・有効回答数：163（有効回答率98.2%）

上の2回目調査と昨年度行った1回目調査を合体させた結果、有効回答数は、380通であった。これらの集計データをもとに、人間関係学部の卒業生のライフコースについて、データをまとめた。はじめに、卒業生を社会環境に合わせて4つの世代に区分した。その区分とは、第一世代は「バブル世代」、第二世代は就職氷河期に卒業した「ポストバブル世代」、第三世代は超氷河期に卒業した「デフレ世代」、第四世代は「ポストデフレ世代」である。この卒業年による経済状況にあわせた4区分では、第二世代（23.7%）、第三世代（22.9%）での回答率がやや少ないものの、各世代でバランスよく回答があった。

卒業生の「職業観」、「子育て観」については、いくつかの価値観の得点について、世代による差が見出された。つまり、今回設定した4区分の世代では、それぞれの価値観をどの程度もっているかが異なることが示された。したがって今後の分析においては、このような差異をもたらす要因は何か、あるいはこれらの差によって満足感などが異なるかどうかを検討することができると考えられた。「結婚観」においては、世代間の有意な差異はなかった。

本年度の研究成果として、以上の基礎的な量的データを論文にまとめた。なおこれらの結果については、インタビュー調査に同意のある75名の卒業生に送付する予定である。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①四年制大学	②女性	③ライフコース	④世代
⑤就業	⑥結婚観	⑦子育て観	⑧職業観

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

今後は、集計されたデータを利用し、より詳細なライフコース分析を行うことが可能になる。はじめに、これまでのライフコース、特に職業との関わりについては、世代によって、社会情勢や初職の条件、家族構成や職業観といったどのような要素により強く影響を受けているのかについて、詳細に分析を行う予定である。

また、質的データの収集も計画している。具体的には、卒時に希望したライフコースが同じ群ごとに、実際にたどっているライフコースの異なる対象者を複数名選出してインタビュー調査を行い、ライフコース選択の決め手になる諸要因について個別事例から探索することを考えている。これらの量的、質的データという両面から分析することにより、本研究では、本学人間関係学部の学部生に、将来について模索するためのモデルを提供できることが期待される。

なお、本年度の研究成果に、「四年制大学進学女性のライフコース分析(2)ー卒業生アンケート調査の集計結果ー」『椋山女学園大学研究論集』第43号(2012.3発行予定)、がある。